**科目名　聴解・読解Ⅱ（Ｎ２）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **担当教員** | 森中　茂明 | | | | |
| **科目の種類** | 一般 | **単位区分** | 選択 | **単位数** | 2 |
| **授業方法** | 講義、演習 | **開講学期** | 後期 | **学年** | 2 |
| **学科・コース** | 情報処理技術学科 | | | | |

**授業概要**

スリーエーネットワークより出版されている「中級を学ぼう」（中級中期）を参考書として

・日本語能力試験Ｎ２の読解問題に対応する長文を読み取る能力

・日本語能力試験Ｎ２の聴解問題に対応する聞き取りの能力

　を養成する授業をする。

**カリキュラムにおけるこの授業の位置付け**

１年次に教科書として使用した本と同じシリーズの本を教材として使用し１年次の授業との整合性を取り、１年次の内容を基にして、さらに発展させた（Ｎ３→Ｎ２）授業を行う

最終的な目標は日本語能力検定試験の合格であるが、「試験のための勉強」ではなく生活に

必要な（日本で生活する上で使用する）日本語を幅広く学習し、結果として試験に合格できる

実力を養成する。（日本語学習での日本語知識・聴解・読解のうち、聴解・読解の部分の学習になる）

**授業項目**

(1)　第５課：遊びと運動①→本文・聴解１・聴解２（ＣＤ使用）：聞き取りと内容理解

(2)　第５課：遊びと運動②→関連読み物（内容の理解）・作文（例文と同じ題で作文を書く）

(3)　第５課：聴解実践　　　　→Ｎ２聴解模擬問題

(4)　第６課：お金①→本文・聴解１・聴解２（ＣＤ使用）：聞き取りと内容理解

(5)　第６課：お金②→関連読み物（内容の理解）・作文（例文と同じ題で作文を書く）

(6)　第６課：読解実践　　　　→Ｎ２聴解模擬問題

(7)　５課・６課総復習（Ｎ３未取得の学生に配慮する）

(8)　５課・６課の試験

(9)　第７課：水①→本文・聴解１・聴解２（ＣＤ使用）：聞き取りと内容理解

(10)　第７課：水②→関連読み物（内容の理解）・作文（例文と同じ題で作文を書く）

(11)　第７課：聴解実践　　　　→Ｎ２聴解模擬問題

(12)　第８課：遺伝①→本文・聴解１・聴解２（ＣＤ使用）：聞き取りと内容理解

(13)　第８課：遺伝②→関連読み物（内容の理解）・作文（例文と同じ題で作文を書く）

(14)　第８課：読解実践　　　　→Ｎ２聴解模擬問題

(15)　７課・８課総復習（Ｎ３未取得の学生に配慮する）

(16)　７課・８課の試験

**授業の進め方**

授業は１単元を３回の授業で終了する形で行う、

１回目：教科書付属のＣＤを聞いて内容を理解する

２回目：長文を読んで内容を読み取る。例文を読んで同じ題で自分も作文を書いてみる

３回目：日本語能力試験Ｎ２程度の聴解問題・読解問題を交互に行う。

　　　　内容が難しすぎるようであればＮ３・Ｎ４など内容を簡単にする

（１）〜（６）で不備だった部分を（７）で補い、（８）で試験を行う

（９）〜（１４）で不備だった部分を（１５）で補い、（１６）で試験を行う

　試験は長文読解の問題を中心とした試験を行う

**授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）**

・Ｎ２程度の聴解問題を聞いて内容が理解できる。

・Ｎ２程度の長文を読んで書いてある内容を理解できる。

・自分の考えを自分の言葉で文章にすることができる

**成績評価の基準および評価方法**

８回目の授業の時ペーパーでの長文を読解する問題中心の試験を行い評価する

・試験の点数が４４点以上であること

・８回の授業の内５回以上出席していること

・聴解については授業中に行う聴解問題より理解の程度を判断する

以上３点を合格条件として、合格者の評価は試験の点数に授業態度や出席状況を加味して算出する

**教科書**

下記のテキストを授業の柱とし、学生のレベルに応じて講義資料を配布し，その資料に沿って授業を進める．

・スリーエーネットワーク出版　「中級を学ぼう」（中級中期）

・アスク出版　日本語能力試験模試と対策

**参考書**

日本語能力試験対策問題集など。

**実務経験**

森中　茂明：昭和６３年よりコンピュータ教育学院で講師をつとめる

　平成１８年より留学生の日本語担当となり現在に至る。

**備考**

特になし